患者向医薬品ガイド
２０２６年８月更新

ミコブティンカプセル１５０ｍｇ

【この薬は？】

販売名	ミコブティンカプセル１５０ｍｇ Mycobutin Capsules 150mg
一般名	リファブチン Rifabutin
含有量 （１カプセル中）	１５０ｍｇ（力価）

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、抗生物質製剤と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、細菌のＲＮＡ（リボ核酸）の合成を阻害することで、細菌の増殖をおさえます。
・次の病気の人に処方されます。

〈適応症〉
結核症、マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（ＭＡＣ）症を含む非結核性抗酸菌症、ＨＩＶ感染患者における播種性ＭＡＣ症の発症抑制
〈適応菌種〉
本剤に感性のマイコバクテリウム属

・この薬は自己判断で飲むのを止めたり、一回分を減らしたりしないでください。指示どおりにきちんと飲まないと、治療効果が低下するばかりでなく、原因菌がこの薬の効かない菌に変化したり、他の抗菌薬も効かなくなったりする可能性があります。医師の指示どおりに飲むことが大切です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。

・過去にミコブティンに含まれる成分または他のリファマイシン系薬剤（リファンピシン）で過敏症のあった人

・ボリコナゾール、エンシトレルビル、ニルマトレルビル・リトナビル、ロナファルニブ、グラゾプレビル、エルバスビル、チカグレロル、アルテメテル・ルメファントリン、リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン、リルピビリン（注射剤）、イサブコナゾニウムを使用している人

〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

・腎臓に重度の障害のある人

・肝臓に重度の障害のある人

・妊婦または妊娠している可能性のある人

・授乳中の人

〇この薬には併用してはいけない薬［ボリコナゾール（ブイフェンド）、エンシトレルビル（ゾコーバ）、ニルマトレルビル・リトナビル（パキロビッド）、ロナファルニブ（ゾキンヴィ）、グラゾプレビル（グラジナ）、エルバスビル（エレルサ）、チカグレロル（ブリリンタ）、アルテメテル・ルメファントリン（リアメット配合錠）、リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン（オデフシィ配合錠）、リルピビリン（注射剤）（リカムビス水懸筋注）、イサブコナゾニウム（クレセンバ）］や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

〔結核症〕

一回量	１～２カプセル 多剤耐性結核症の場合は、２～３カプセル
飲む回数	１日１回

ただし、腎臓に重度の障害のある人は、飲む量が通常の半分になります。

〔マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（ＭＡＣ）症を含む非結核性抗酸菌症の治療〕

一回量	２カプセル
飲む回数	１日１回

ただし、腎臓に重度の障害のある人は、飲む量が通常の半分になります。

〔ＨＩＶ感染患者における播種性ＭＡＣ症の発症抑制〕

一回量	２カプセル
飲む回数	１日１回

ただし、腎臓に重度の障害のある人は、飲む量が通常の半分になります。

●どのように飲むか？

コップ１杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して２回分を一度に飲まないでください。
気がついた時に、１回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は１回とばして、次の時間に１回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・白血球減少症（突然の高熱、寒気、喉の痛み）、血小板減少症（鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい）などの血液障害がおこることがあるので、定期的に血液検査が行われます。
・肝機能障害（疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振）がおこることがあるので定期的に肝機能検査が行われます。
・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・尿、便、皮膚、唾液、痰、汗、涙などが橙赤色になることがあります。また、コンタクトレンズが着色することがあります。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
白血球減少症 はっけっきゅうげんしょうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
貧血 ひんけつ	体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸（どうき）、息切れ
血小板減少症 けっしょうばんげんしょうしょう	鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
汎血球減少症 はんけっきゅうげんしょうしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきからの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み
肝機能異常 かんきのういじょう	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる

重大な副作用	主な自覚症状
肝炎 かんえん	体がだるい、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、発熱、上腹部痛、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
心停止 しんていし	気を失う
心室細動 しんしつさいどう	気を失う
不整脈 ふせいみゃく	めまい、動悸、脈が遅くなる、気を失う、脈がとぶ
脳出血 のうしゅっけつ	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	体がだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
消化管出血（吐血、メレナ、胃腸出血） しょうかかんしゅっけつ（とけつ、メレナ、いちょうしゅっけつ）	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、便に血が混じる、黒い便が出る、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
偽膜性大腸炎 ぎまくせいだいちょうえん	腹痛、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、発熱、頭痛、吐き気、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる
深部静脈血栓症 しんぶじょうみゃくけっせんしょう	皮膚が青紫～暗紫色になる、下肢のはれ、下肢のむくみ、下肢の痛み、下肢（もしくは、はれた部分）の熱感
血栓性血小板減少性紫斑病 けっせんせいけっしょうばんげんしょうせいしはんびょう	発熱、体がだるい、あおあざができる、鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、尿量が減る、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、意識の低下
腎機能障害 じんきのうしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
筋痙縮 きんけいしゅく	顔や手足の筋肉がぴくつく、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、手を握った後に開きにくい、筋肉のこわばり、筋肉のつっぱり
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
精神病性障害 せいしんびょうせいしょうがい	幻覚、妄想、興奮、抑うつ
歩行障害 ほこうしょうがい	上手く歩けない、まっすぐ歩けない、転びやすい、小刻みに歩く
ぶどう膜炎 ぶどうまくえん	目のかすみ、視力の低下、視界にごみや虫のようなものが飛んでいるように見える、まぶしい、目の痛み、目の充血

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	突然の高熱、寒気、体がだるい、出血が止まりにくい、出血しやすい、発熱、疲れやすい、力が入らない、食欲不振、体がかゆくなる、冷汗が出る、むくみ、顔や手足の筋肉がぴくつく、まっすぐ歩けない、転びやすい
頭部	めまい、頭痛、意識の消失、気を失う、突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい、意識の低下、一時的にボーっとする、幻覚、妄想、興奮、抑うつ
顔面	鼻血、顔面蒼白
眼	白目が黄色くなる、目のかすみ、視力の低下、視界にごみや虫のようなものが飛んでいるように見える、まぶしい、目の痛み、目の充血
耳	耳鳴り
口や喉	喉の痛み、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、吐き気、嘔吐、突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、血を吐く
胸部	動悸、息切れ
腹部	上腹部痛、腹痛
手・足	手足が冷たくなる、脈が遅くなる、脈がとぶ、突然片側の手足が動かしにくくなる、下肢のはれ、下肢のむくみ、下肢の痛み、下肢（もしくは、はれた部分）の熱感、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、上手く歩けない、小刻みに歩く、手を握った後に開きにくい
皮膚	あおあざができる、皮膚が黄色くなる、皮膚が青紫～暗紫色になる
筋肉	筋肉のこわばり、筋肉のつっぱり
便	便に血が混じる、黒い便が出る、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る

【この薬の形は？】

形状	 ０号カプセル	

長さ	２２ｍｍ
外径	７．６ｍｍ
識別コード	Ｐｈａｒｍａｃｉａ&Ｕｐｊｏｈｎ ＭＹＣＯＢＵＴＩＮ
色	キャップ：濃赤褐色 ボディ：濃赤褐色

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	リファブチン
添加剤	結晶セルロース、ラウリル硫酸ナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、含水二酸化ケイ素 （カプセル本体）酸化チタン、三二酸化鉄、ラウリル硫酸ナトリウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

・直射日光と湿気を避けて、室温（１～３０℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社
（https://www.pfizer.co.jp/pfizer/ ）
メディカル・インフォメーション（患者さん・一般の方）
電　　話：０１２０－９６５－４８５
受付時間：月～金　９時～１７時３０分
（土日祝日および弊社休業日を除く）